

不登校児童生徒への対応事例15（高等学校第3学年男子）

～電話及び面接相談における早期対応と家庭・学校との連携～

問題の把握

相談者は6月に入り断続的に欠席が続いている。要因としては、同級生から何気ない悪口を言われたことにより、クラス全体に対して不信感を抱き、集団生活に耐えられなくなったことが考えられる。両親には自分の悩みを打ち明けているが、自分の話の途中で親から指示をされたり話を打ち切られたりするので、親は、自分の苦しみを理解してくれていないと感じている。担任は、週に1回は家庭訪問をしている。また、欠席が続く以前は、教育相談の担当教員が本人からの相談をよく聴いていた。

対応状況

1 相談機関の対応

対応日	面談内容	備考
6月上旬	（電話） ・本人から電話で悩んでいる状況について話を聞き、目的をもって学校生活を送りたいと考えていることを称賛した。 ・解決に向け、継続的な来所相談について紹介し、本人と保護者とが話し合った後、保護者とともに来所する意向を示した。	・登校し、クラスの人と緊張せずに会話できるようになりたいという本人の気持ちを聴き出した。
	（面接） ・本人から、落ち込みやすい性格を直したいことや家族に話をしっかり聴いてほしいことなどの思いを聴き、本人との信頼関係を構築した。 ・本人は登校してみたいという意向を徐々に示した。 ・保護者には、本人の様子について確認し、保護者の取組をねぎらい称賛するとともに本人の悩みやつらさを今まで以上に受けとめる必要があることを助言した。 ・定期的に当機関で面談することを確認した。	・本人及び保護者の了解の下、学校と情報交換を行い、本人が登校した際の関わり方や条件整備、保護者との役割分担等について確認した。
6月下旬	（面接） ・本人に登校した際の状況等を確認し、一日も休まずに登校していることを称賛した。また、今後も来所し、本人が不得意と感じているコミュニケーションに関するトレーニングを行ってみることを提案した。 ・保護者には、登校できるようになるまで本人をしっかり支えた両親の労をねぎらい、今後も本人の話をよく聴いたり、できていることをとらえて褒めたりするように助言した。	・7月に学校から、保護者と対応について十分に話し合い、本人とクラスの生徒を指導した結果、本人は休まずに登校するようになり、教室に戻ることができたとの報告があった。

2 相談者の変容

学校の配慮で保健室への登校などを経て徐々に登校機会を増やし、毎日休まず教室で学習できるようになった。

自分と共通の趣味をもつ生徒と仲良くなり、人間関係づくりの力の向上が見られつつある。

不登校の問題を速やかに解消するためのポイント

- ・初期の段階で、登校を目指した働きかけをすること。
- ・保護者と学校との間で、生徒への対応について意思の疎通を図り、それぞれの役割を明確にした上で協働して取り組むよう促すこと。
- ・登校できるようになった後も、適切な支援を継続すること。